

答え合わせ・解説

問1	答え 2 果樹園	この特性を利用して、日本では古くから傾斜地や扇状地で果樹栽培が盛んです。果物の中でも特に水はけの良い土壌を好む品種が、扇状地で質の高い収穫を上げています。
問2	答え 1 養殖業	この穏やかな環境と、山から栄養分が流れ込みやすい地形条件を生かし、カキ、ホタテ、ワカメなどの養殖業が盛んに行われています。また、水深が深く海水が循環しやすい場所も多いため、魚介類の育成に適しています。
問3	答え 1 地震	海底で地震が起きると、海底面が急激に隆起したり沈降したりして海面を押し上げ、波となって周囲に広がります。これが津波です。津波は通常の波と異なり、波長が非常に長く、海底全体が動くため、沿岸に到達すると巨大な破壊力を持つようになります。
問4	答え 2 富士山	富士山は日本で最も高い山であり、その美しい円錐形の形から日本の象徴として知られています。地質学的には活火山に分類され、フォッサマグナの構造と関連して形成された山々の中で最大の規模を誇ります。
問5	答え 2 寒流	親潮のように、高緯度から低緯度へ向かって流れる海流を寒流と呼びます。寒流は水温が低だけでなく、酸素や栄養分が豊富に含まれているため、プランクトンが大量に発生し、魚が集まる豊かな漁場を作り出す特徴があります。
問6	答え 2 プレート	プレート同士がぶつかったり、一方の下へ沈み込んだりする境界部分では、大きな力が発生します。日本列島はこのプレートの境界が複雑に重なる場所にあり、沈み込むプレートに引きずられたり、跳ね返ったりする力が地震の主な原因となっています。この動きによって地殻のひずみが溜まり、活断層が形成されることもあります。
問7	答え 2 潮目	この2つの海流がぶつかり合う境界線の海域を潮目（しおめ）と呼びます。異なる海流が混ざり合うことで、プランクトンが大量に発生し、それを餌とする魚類が豊富に集まるため、世界でも有数の良好な漁場として知られています。
問8	答え 1 リアス海岸	海岸線が複雑に入り組んでおり、細長い湾が奥深くまで入り込んでいるのが特徴です。津波がこの狭い湾内に入ると、地形的な特性から波が狭い場所に押し込められ、波高が急激に上昇する「津波増幅現象」が起こります。そのため、同じ津波でも、外洋に面した平坦な海岸よりも、リアス海岸の奥地の方が深刻な被害を受ける傾向があります。
問9	答え 3 海霧	冷たい海の上で冷やされた空気が霧となり、沿岸へ流れ込む現象を海霧と呼びます。この霧が長時間かかると、日照不足を引き起こし、北海道の太平洋側の農作物の成長を妨げ、冷害の原因となることがあります。
問10	答え 4 ハザードマップ	ハザードマップは、自然災害が発生した際に被害が想定される範囲や、避難場所、避難経路などを地図上に示したものです。各自治体が過去の災害実績や地形データをもとに作成しており、インターネットや広報を通じて住民に提供されています。自分の住んでいる地域のリスクを把握し、災害への備えを高めるための重要な資料です。
問11	答え 3 集落	この「扇端」と呼ばれる地点は、古くから水を得やすく、集落が形成される中心地となってきました。水利条件が良いことから、生活だけでなく稲作などの農業にも適した場所として、地域の発展の核となりました。
問12	答え 2 氷河	氷河は長期間かけて山を削り取り、カールと呼ばれる円状の窪地や、鋭い尾根を作り出しました。日本アルプスで見られるこれらの地形は、当時の寒冷な気候環境を物語る貴重な遺産です。
問13	答え 2 防潮堤	防潮堤は、海からの浸水を防ぐための壁状の構造物です。津波の勢いを弱め、到達する時間を遅らせる効果を期待して設置されます。近年では、より高い津波にも耐えられるよう、二重構造にしたり、防潮林と組み合わせたりする工夫も行われています。
問14	答え 3 暖流	黒潮は非常に勢いが強く、温かい水を運ぶ暖流の代表です。この暖流は、日本列島の南側に沿って北上しながら、周辺の気候や生態系に大きな影響を与えています。水温が高いため、多くの魚が回遊し、豊かな海を作り出しています。
問15	答え 4 浸水想定区域	浸水想定区域は、河川が氾濫した場合に、どれくらいの深さまで水が浸かる可能性があるかをシミュレーションして示した範囲です。ハザードマップには、浸水深（水がどれくらいの深さになるか）や浸水が継続する時間などが記載されています。この区域を知ることによって、大雨の際の避難行動を早める判断に役立てることができます。